

地域密着型通所介護 第1回 運営推進会議 会議録

日 時：令和元年10月17日（木）16:00～17:00

場 所：水仙の家3階

出席者：利用者、家族、町会長、包括職員、ケアマネジャー、事業所職員4名 計9名

1. 開会あいさつ(管理者より)

2. 自己紹介

3. 事業所の概要、利用状況ならびに活動状況の報告(別紙資料を参照)

4. 意見交換(評価、助言、要望も含む)

・一人暮らしの方が今後さらに増えていくことが予想され、安否確認をどうしていくかが課題である。

・(上記を受けて)現在小松地域では、同意をいただいた高齢、障がいの方々の名簿のうち、2町会においてそれぞれ管理しながら、見守り活動が取り組まれている。民生委員とタイアップすることも視野に入れながら、今後も毎年2町会ずつぐらいで見守り活動を広げていきたいと考えている。

・瑞光地域には認知症サポート医がおられる。今後は認知症予防も意識しながら地域医療との連携を大切にしなければならない。水仙の家では現在提携している医療機関は特にないのことだが、今後検討してみてはどうか？

→地域医療との連携は、在宅医療と介護の連携が重要視されている中、ますます必要になっている。水仙の家では現在提携医はいないが、地域の医療機関(クリニック、薬局等)との連携を深めていく必要性を感じているので貴重な意見として受け止めたい。

・地域のボランティアさんがたくさん活動しているのは、強みだと思う。受け入れ体制が整っており、地域と施設が良い関係にあるのでボランティアさんが活動しやすく、地域としてもボランティアさんを紹介しやすい。

・地域としては福祉施設との連携が課題となっている。逆に施設(事業所)側も積極的に地域に出向いてほしいとの思いもある。やっと管理者の方を覚えてもいつの間にか変わってしまっていることもあり、そうすると施設の運営方針も変わってしまうことがある。水仙の家は中学校の避難体験でも協力してもらっており、地域と施設との連携を考える際のオピニオンリーダー的に水仙の家がモデルケースになってほしい。

→水仙の家としても地域との関係を大切に考えており、地域密着型通所介護だけでなく水仙の家全体としても小松地域活動協議会に参画しながらさまざまな協力をおこなっている。今後も地域内の施設(事業所)との連携を深めながら、地域を意識した関係づくりをおこなっていきたい。

・以前は人数が多かったイメージだが、地域密着型に移行してから雰囲気も変わり、アットホームな感じになった。若いスタッフがいることも初めて知った。